

平成 25 年度 現代社会学部  
自己点検評価報告書  
— 教育研究活動の実績 —

1. 概要
2. 概況
3. 教養教育
4. 語学教育
5. 専門教育
6. 留学生教育
7. 教育改善・FD活動
8. 学生生活・学生支援
9. キャリア支援
10. 国際交流
11. 地域交流・地域貢献
12. 入試対策
13. ホームページ、広報活動
14. 研究活動
15. 大学・学部の戦略・運営に関する検討
16. 後援会・保護者対応
17. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

平成 26 年 3 月

富山国際大学 現代社会学部

## 1. 概要

### 1. 実績・現状

#### (1) 本学の理念、学部の教育目標の達成

富山国際大学の基本理念は「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」である。

現代社会学部の教育目標は、「これからの 21 世紀を支える、国際的センスを持った、地域に精通し、かつ常に時代の潮流に対応できる実践的な人材を育成する」ことである。

アドミッションポリシーは、現代社会が抱えている問題を自ら発見・解決し、未来の創造に積極的に参加しようとする以下のような人である。

- ①人と環境に配慮した観光政策・観光産業による地域社会の持続的発展に、高い関心を持つ人。
- ②環境に対する専門的知識と行動力を養い、地域や企業で豊かな環境を創造することに、高い関心を持つ人。
- ③地域社会や組織の持続的発展のために、情報通信技術を活用し企業等の経営を創造・革新すること に、高い関心を持つ人。

本学の基本理念、学部の教育目標等については明確に定められ、「大学案内」、「学生便覧」などの印刷物や本学ホームページに掲載して、学内外へ情報発信し周知している。

#### (2) 分野別特徴

##### a. 教養教育

本学の教育理念・目標に沿い、共存・共生のアプローチ科目（社会生活基礎科目・社会理解基礎科目）、時代の潮流へのアプローチ科目（情報化対応科目・国際化対応科目）、キャリア・実務科目、教養演習科目を開講している。教養ゼミ担当教員によるアカデミックアドバイザー会議を月 1 回程度開催し、ゼミ生とゼミ運営について情報交換を行っている。

##### b. 語学教育

国際人としての能力の向上を目指すため、「基礎英語」の必修化と東アジア地域での国際活動に必要な「中国語」「韓国語」「ロシア語」と「実践英語」のいずれかを選択必修としている。海外協定校への交換留学（長期留学）、語学研修（短期留学）を強く奨励している。

##### c. 専門教育

「基礎科目」「地域づくり科目」「国際交流科目」からなる学部共通科目と、観光・環境デザイン・経営情報の専攻ごとの専攻科目を学び、それぞれの専門分野で活躍できる能力を身につけさせる。本学部の特色ある教育である専攻ごとの「実習」を必修科目としている。地域の施設・企業などの現場や実習場所に出向き、実践活動を行いながら、専攻教育の理解を深めている。

##### d. 留学生教育

平成 25 年度は学部留学生、交換留学生、外国人研究生、合計 95 名が在学している。日

本語教育はプレースメントテストの成績によりクラス分けしている。学部留学生は全員卒業までに日本語能力検定試験でN1合格を目指している。授業外では、日本の地域社会と触れあう体験活動を約20回実施した。

#### e.教育改善・FD活動

学部学務委員会、学部FD委員会が中心となり教育改善・FD活動を推進した。FDワークショップを3回、FD研修会を1回開催した。ほぼ全教員が参加し、自らの授業改善に取り組むヒントを得た。今後の課題は、カリキュラム体系の見直しやFD活動の活発化である。

#### f.学生活動・生活支援

学生主体の大学づくりに向けた取り組みを推進した。新入生オリエンテーション、スポーツ文化交流会、大学祭等の改革・改善に向け、学友会・大学祭実行委員を中心とした学生と学務委員を中心とした教職員が話し合いを重ねた。

#### g.キャリア支援

キャリア科目として、1年生必修の「キャリア・デザイン講座」、3年生必修の「キャリア支援講座」を開講している。教養演習（1年、2年）では、SPI演習を導入した。インターンシップはこれまでの夏季に加え、2月から3月にかけても実施した。また、海外インターンシップ先の開拓に注力した。公務員・金融・国際関係企業希望者に対する対策プロジェクトを立ち上げた。公務員希望者に対しては、新しく講座を開設する準備を進め、平成26年度より開講する。

#### h.国際交流

留学生への学習・生活指導、海外協定校との連携による海外研修・留学プログラムを、国際交流センター委員が担当職員と協力し実施している。その実績・現状をまとめた。11月に開催した「国際交流フォーラム」は、400名弱の参加人数を集めた。勉学意欲の高い学部留学生の確保が課題である。

#### i.地域交流・地域貢献

主に本学園サテライト・オフィス「地域交流センター」で実施している、エクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座により、地域貢献を行っている。今後の課題としては集客力の向上と新たなプログラムの開発があげられる。

#### j.入試対策

平成26年度入試の結果、総計110名の入学者が確定した。入試種別、高校別入学者数を分析し、来年度入試に向けての対策を策定した。取り組める課題から早急に実施している。

#### k.HP・広報活動

大学ホームページによる広報活動の実績（アクセス件数等）、大学に関連する新聞記事等

の掲載実績をまとめた。学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼している。

## 1. 研究活動

教員による学会発表、論文発表を集計した。紀要論文は多くの教員が執筆した。締切が厳守されなかった。紀要論文提出時期の見直しと周知徹底が課題である。競争的資金等による採択研究の実績を集計した。科研費採択数の増加が望まれる。

### m. 大学・学部の戦略・運営に関する検討

学長室スタッフ会議の業務内容と検討事項を記述。課題は大学のデータベースを構築してその活用法について方針を決め推進することである。

### n. 後援会・保護者対応

後援会理事会・後援会総会、保護者懇談会（2回）を開催した。後援会総会や保護者懇談会に出席される保護者の方を増やすことが課題である。

### o. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動状況をまとめた。授業および学内業務優先を原則として、適切に対応することが大切である。

## 2. 課題

### (1) 入学定員の確保

入学者数が入学定員を確保できていない現実に危機感を持ち、その危機感を共有することが必要である。定員確保するためには入試業務担当者だけではなく、すべての部署で教職員が本学部の質的向上に、より一層努力する。年度末に策定された「富山国際大学アクションプラン 2014・2016」を確実に実行する。

### (2) 魅力ある授業の実現

入学時学力および勉学意欲に大きな差がある学生に対して、等しく理解できる授業をすることは大変困難であるが、授業改善を継続し魅力的な授業の実現に努力する。FD活動などを通して効果的な教育方法の開発、共有を進める。

### (3) 高い進路（就職）実績の達成

卒業生全員の進路、特に就職希望者全員の就職を第一に達成する。次に第一志望の進路に進める卒業生を増加させる。公務員講座開設など、そのための取り組みをさらに推し進めていく。

## 2. 概況

### 1. 実績・現状

#### (1) 学生の状況

##### 1) 在学者数(平成26年3月31日現在)

学年	総数	男女別				県内外別							
		男性		女性		富山県内				県外・海外			
		人数	比率	人数	比率	男性	女性	計	比率	男性	女性	計	比率
1年生	99	63	63.6%	36	36.4%	40	22	62	62.6%	23	14	37	37.4%
2年生	101	69	68.3%	32	31.7%	54	27	81	80.2%	15	5	20	19.8%
3年生	96	69	71.9%	27	28.1%	50	19	69	71.9%	19	8	27	28.1%
4年生	133	76	57.1%	57	42.9%	59	39	98	73.7%	17	18	35	26.3%
合計	429	277	64.6%	152	35.4%	203	107	310	72.3%	74	45	119	27.7%

※休学者数を含む

##### 2) 県外学生の出身地(平成25年度)

府県	1年	2年	3年	4年	計	府県	1年	2年	3年	4年	計
秋田	2	2	1	0	5	京都	1	0	0	0	1
福島	1	1	0	1	3	兵庫	3	0	0	1	4
新潟	0	1	1	0	2	愛媛	1	2	0	0	3
石川	4	0	1	2	7	佐賀	1	1	0	0	2
福井	1	0	0	1	2	長崎	2	0	1	1	4
長野	1	1	1	1	4	宮崎	1	0	0	0	1
岐阜	1	1	1	0	3	鹿児島	0	1	0	0	1
愛知	1	0	0	0	1	計	20	10	6	7	43

##### 3) 海外学生の出身地(平成25年度)

国名	1年	2年	3年	4年	計
中国	15	10	20	26	71
韓国	0	0	1	1	2
ネパール	2	0	0	0	2
フィリピン	0	0	0	1	1
計	17	10	21	28	76

#### (2) 教職員

##### 1) 教員組織(平成25年度)

区分	人数	内訳
現代社会学部専任教員	22名	教授12 准教授6 講師4
学園内兼任・兼任講師	4名	子ども育成学部3 富山短大1
学園外兼任講師	31名	
計	57名	

##### 2) 事務職員(平成25年度、東黒牧キャンパス)

区分	人数	内訳
専任事務職員	22名	次長1 参事3 課長4 係長4 主査5 主事4 運転手1
契約職員	5名	職員5
計	27名	

### 3. 教養教育

#### 1. 実績・現状

##### (1) 教養授業

教養科目として、「社会生活基礎科目」5科目、「社会理解基礎科目」6科目、「情報化対応科目」3科目、「外国語科目」12科目、「日本語科目」10科目、「キャリア・実務科目」8科目、「教養演習科目」4科目を開講。授業評価アンケート結果における総合評価は、概ね4点台で良好。

##### (2) 教養ゼミ

合同教養演習1として、前期に「eポートフォリオ・図書館利用法」、「大学生活のためのツールブック利用法」、後期に「北日本新聞連携講座」、「留学生との交流会」を実施。

合同教養演習2として、前期2回、後期2回、就職試験プレテスト（SPI 問題対策講座）を実施。

1、2年のゼミにおいて、30分程度の時間を充てて15回にわたりSPIの問題演習を実施。

学外の業者と提携して、「大学生基礎力調査Ⅰ・Ⅱ」を各ゼミにおいて2013年1月～2月において実施。当該調査は、FD活動等において活用された。

##### (3) 教育指導

1年、2年ゼミ担当者において、アカデミック・アドバイザー連絡会議を月1回程度実施。ゼミ生とゼミ運営の方法についての情報交換を定期的に行う。

ゼミ担当教員はゼミ生の授業への出欠状況を把握した上で、問題のありそうな学生については適宜アドバイスをしている。

保護者との連携として、ゼミ担当教員による成績表コメントの送付、年2回の個別保護者懇談会を実施。保護者懇談会に参加した保護者の数は、6月には25名、10月には37名であった。

なお、本年度における退学者は1年生は4名（退学率4.1%）で、理由は就学意欲の低下が2名、進路変更（他大学への入学）が2名。2年生は3名（退学率3.1%）で、理由は就学意欲の低下1名、進路変更（他大学への編入学）1名、進路変更（就職）1名であった。

#### 2. 課題

##### (1) 教養授業

- ・授業評価アンケートの結果を見据えた授業改善。
- ・授業科目として、国際関係に関する授業の充実。
- ・ディプロマ・ポリシーとの関連を意識した授業内容。

##### (2) 教養ゼミ

- ・4年次の卒論作成の基礎として、論文作成能力及びプレゼンテーション能力といったアカデミック・スキルの涵養。
- ・問題等を抱えた学生に対して、アカデミック・アドバイザー連絡協議会がいかに制度的に対応していくかの検討。

- ・ e ポートフォリオと「ツールブック」の活用促進。
- ・ 北日本新聞連携講座（1年）におけるコラム掲載作文の厳選。
- ・ ゼミ運営方法に関する教員同士の更なる情報交換。
- ・ ゼミにおける SPI 問題演習の実施方法についての再検討。

### （3）教育指導

- ・ 「大学生基礎力調査Ⅰ・Ⅱ」の実施時期と活用法に関する検討。
- ・ 2年生に対する制度的な就職指導のあり方についての検討。
- ・ 長期留学を志す学生に対する指導方法。

## 4. 語学教育

### 1. 実績・現状

#### (1) 英語

平成 25 年度の基礎英語 I または基礎英語 II (1 年 (前・後)・必修科目) はそれぞれ 5 クラスで行い、専任教員 1 名 (パブリー講師) と非常勤講師 2 名が担当した。実践英語 I (2 年 (前)・選択必修科目) は 2 クラスで行い、実践英語 II (2 年 (後)・選択必修科目) は 1 クラスで行い、非常勤講師 2 名が担当した。

観光英会話 (3 年 (前)・選択科目) は専任教員 1 名が担当した。ビジネス英語と **Advanced English** (旧カリキュラム 1・2 年 (前)・選択科目) は実践英語と同時開講した。

学生にプレースメントテストを行い、基礎英語のクラス分けを行った。能力 (テストの点数) をもとに現代社会学部で初めて能力別のクラスを作り、原則として前期と後期クラスは変わらないようにした。その結果、多くの学生が自分の英語力のレベルにふさわしい授業内容・英語練習などを受けた。

実践英語はアメリカとオーストラリア出身の非常勤講師が担当し、学生は、自身のアメリカ (カナダなど) ないしオーストラリア (ニュージーランドなど) の文化への興味によってクラスを選んだ。

#### (2) 中国語

中国語の履修者が多いため、A・B と 2 クラスに分けて講義を行った (1 クラスは 27 名程度)。専任教員 1 名と非常勤講師 1 名で、それぞれ週 2 回授業を担当した。

学生の約 3 分の 2 が中国語への学習意欲が旺盛で、授業のほかに自主的に勉強に取り組んだ。約 3 分の 1 は受け身の形で与えられたことしか勉強しない。授業に無断欠席者が殆どいなかった。

1 年間の授業を通して、学生たちは、中国語の正しい発音と声調と中国語の基本知識が大体身についた。よく勉強していた学生たちは目標達成度も高く、簡単な会話と作文ができるようになった。授業は対話型、演習・反復型、グループ学習を重視する形で行われた。

勉強熱心な学生たちから、1 年間だけの勉強では物足りない、中国語を引き続き勉強したいとの声があった。

#### (3) 韓国語

韓国語は平成 24 年度入学生から選択必修科目となり、同時に週 2 回の開講となった。「韓国語 I」(履修登録者 26 名。単位取得者 22 名) では、ハングルと発音の習得、続いて会話練習を織り込みながら初級文法を学習した。「韓国語 II」(履修登録者 17 名。単位取得者 15 名) では、「韓国語 I」で学習した内容を復習した後、過去形や仮定形、推量など基礎的文法事項を学習した。

シラバスで「韓国語 I」の到達目標に掲げた、ハングルの仕組みを覚え、読み書きでき、簡単な自己紹介ができるレベルは受講生の 8 割は到達できたとみている。「韓国語 II」の到達目標に掲げた基本的な文法事項をマスターし、簡単な会話ができるレベルに到達した学生は、数名に留まった。

中級以上の韓国語授業が開講されていないので、本格的な韓国語学習は協定校への留学

を勧めている。平成 25 年度は、韓国語受講生の中で聖公会大学校へ長期留学を希望する学生は 1 名だった（平成 26 年度留学中）。この学生は「異文化研修（韓国）」に参加した学生でもあった。授業中の韓国留学情報のアナウンスとともに「異文化研修（韓国）」への参加者を増やすことが留学に関心を持つきっかけとなると感じている。

#### （４）ロシア語

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象に、やさしく、楽しい授業を展開し、基本的なことを繰り返すことによって、ロシア語の文字、発音、基本的な会話表現、文法を学び、ロシア社会の初歩的な知識も学ぶことができた。

ロシア語の基礎知識を得て、挨拶などの実用的な表現を覚えた。ロシア社会の初歩的な知識も学び、ロシア文化について学ぶことができた。

項目	人数（人）	備考
ロシア語 I（前期）	15	
ロシア語 II（後期）	8	
合格者数	23	
不合格者数	1	不合格者は欠席が理由。2013 年度で退学した。

## 2. 課題

### （１）英語

平成 25 年度は、クラス分けテストのレベルが高すぎて、クラス分けをきちんとできなかったことがわかった。英語にも内容にもよく反応できる上位の学生達の満足度にも配慮した。平成 26 年度プレースメントテストを改善した。更に、1 年生向けの実践英語を導入した。

2 年生及び 3 年生向けの実践英語のクラスは日本人学生の中で人気なかった。その理由を検討したが、現時点で不明である。後期の履修者数が少なすぎ、2 クラスから 1 クラスになった。今後、実践英語の授業に興味を持ってもらうように工夫をする。

学生に TOEIC、TOEFL などの英語検定に興味を持たせ、その検定での点数を上げるための方策を検討していくことが必要である。

### （２）中国語

スポーツクラブに所属している履修者たちの勉強意欲を高めることに授業担当者として工夫しなければならないと思う。

中国語を勉強して、中国語の能力検定試験への挑戦を根気強く推し進めるべきである。

### （３）韓国語

ほとんどの受講生が初めて韓国語を学習するので、スタートラインは同じなのだが、前期終了時点では、学生ごとに顕著な理解度の差ができてしまう。これを解消すべく、授業方法の工夫を重ねている。平成 26 年度より自宅学習を促すため、毎回、復習用の学習プリントを配布、翌週回収し点検している。

アクティブ・ラーニング（グループワーク）の導入を試みているが、まだ際立つ成果は

出ていない。これまでグループのメンバーを定期的に入れ替える、グループ内で話し合いを促すなどしてきた。平成 26 年度はグループ内でのコミュニケーションを活発化させる方策を種々検討し試したい。

「韓国語Ⅱ」の受講者が減少した原因は、中国人留学生の日本語授業と時間割が重なったことだった。平成 26 年度は、日本語授業と重ならない時間割（月曜日 1 限、火曜日 3）とした。

#### （４）ロシア語

1 年生でロシア語を習っても、2 年生になってから使う機会がなければ大学を卒業するまでに忘れるだろうと思う。新しいカリキュラムを作る時に、2 年生及び 3 年生向けのロシア語科目を入れる必要がある。興味を持ってもらうような講義をすることに工夫をする。

2・3 年でロシア語を勉強することが可能であれば、1 年生でロシア語を勉強し、2 年生及び 3 年生でロシア語を勉強し続け、上達した学生にロシア語検定試験を受けるようにする。

## 5. 専門教育

### 5-1 観光専攻

#### 1. 実績・現状

##### (1) 観光専攻の専攻科目（講義）

平成 25 年度は新カリキュラム対象者（1、2年）、旧カリキュラム対象者（3、4年）とカリキュラムの切り替えの過渡期であった。観光専攻の1、2年対象の新カリキュラムは、11科目開講され専任教員7名と非常勤講師2名で担当した。また、観光専攻の3、4年次対象の旧カリキュラムは、30科目開講され専任教員7名と非常勤講師7名で担当した。

専攻科目の専任教員担当科目では、授業手法としてAL技法を活用したグループワーク等を使用しながら双方向の授業を行った。授業アンケート等でも、総合評価に関する項目では、4点台（5点満点）で評価は高い。

##### (2) 観光実習

###### 1) 概要

富山県をフィールドとして、観光客の動向調査ならびに住民の意識調査、報告書の作成、発表の方法を学ぶことを目的とした。具体的には、立山駅での観光客動向調査、富山市岩瀬町における観光資源調査、富山市千石町商店街・太田口商店街における住民の意識調査を行ない報告書の作成、パワーポイントにおける学内発表会を行った。また、観光先進地域である長野県の小布施町の視察を行なった。

###### 2) 成果

- ①学生自ら課題を設定し、必要なデータを収集・分析、それに基づいた成果を発表するという一連の観光調査を実施できた。
- ②グループ学習が苦手な学生も最終的にはグループの一員として役割を果たすことができた。
- ③班長は、リーダーとして班員の意見を取りまとめたり、役割を分担させたりする作業を実施できた。
- ④報告書を作成できた

###### 3) 課題

授業アンケート等を見ると、プラスの評価が大部分であったが、中には「調査地域を絞ってじっくり調査、検討したい」という意見もあった。この点に関しては、来年度の授業設計に活かしたい。

##### (3) 専門演習Ⅰ・Ⅱ

専門演習Ⅰは4名の教員、専門演習Ⅱは5名の教員で担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：高橋（光）教授4名、斎藤准教授5名、佐藤（悦）准教授3名、助重准教授6名。

専門演習Ⅱ：高橋（光）教授8名、成澤教授6名、斎藤准教授7名、佐藤（悦）准教授5名、助重准教授8名。

4年次34名は全員卒業論文を書き上げ、2月7日に卒業論文発表会を行った。

表 1 : 卒業論文タイトル

番号	タイトルーサブタイトルー
1	総合型地域スポーツクラブの可能性
2	復活の道を辿るプライダグル業界のこれから～ジミ婚、ナシ婚を超えた新たな魅力とは～
3	富山観光バリアフリー～現状と課題～
4	ロケーション地をツールに新たな観光資源の創出～富山県を事例に～
5	中日茶文化交流
6	富山県における文化観光の推進～ユニバーサルデザインからの一考察～
7	全天候型観光資源としての美術館・博物館の活用ー富山広域圏を事例としてー
8	インターネット時代における観光ガイドブックの存在意義
9	住民生活と観光の両立ー黒部市生地地区を例としてー
10	富山県における土産品の流通とその課題～米菓を中心に～
11	B級グルメにおける地域活性化の要件～富山でなぜB級グルメが育たないのか～
12	富山県内レストラン・ホテルにおける県産食材の利用と観光資源としての可能性
13	映画ロケの誘致による地域プロモーションとその効果
14	アニメによる観光地域の活性化についてー金沢・湯涌温泉、富山県南砺市の事例を中心としてー
15	都市における小河川の観光的利用についてーいたち川の活用ー
16	温泉観光の在り方ー県内の温泉を中心にー
17	地域農協における農を活かした観光の実態
18	高齢者から見た富山の観光の在り方
19	富山県の観光の現状と今後の在り方について
20	フィッシャーマンズワーフを考える～北陸3県を例に～
21	大連星海広場におけるゴミ問題について～広場中央の華表広場の例～
22	富山県における並行在来線の多角化について
23	富山の新しい都市観光戦略ーガラス工芸を中心にー
24	ゆるキャラによる観光活性化の可能性～熊本県を事例として～
25	エコツーリズムにおける観光ガイドの重要性ー富山市を事例にー
26	上海市にあるホテルのサービスの現状と今後の方向性ークラウンプラザセンチュリーホテルを事例にー
27	庄川温泉郷ピオファンゴがもたらす温泉地活性化の可能性ーヘルスツーリズムの一環としてー
28	観光資源としての“カフェ”の魅力ー富山県のプロモーション戦略を事例としてー
29	「富山やくぜん」による観光客誘致の可能性
30	世界遺産平泉の観光の現状と課題ー町全体に観光客を分散させるために～
31	音楽フェスティバルによる地域資源の活用について
32	瀬戸内アートの島々における地域住民と観光客の関係ー直島・豊島・犬島を中心にー
33	宇奈月温泉の新しい形ー団体客から個人客へー
34	富山県の自然資源の活用と保全ー魚津市片貝川の洞杉を事例にー

## 2. 課題

- ①平成 26 年度は、新カリキュラムの 1 年次～3 年次の講義科目が出そろっているので、専攻内における FD 活動として、授業内容の点検や有効な教育技法の共有などを行う予定である。このような活動を通して、より質の高い授業内容や教育技法の向上を目指す。
- ②レベルの高い卒業論文を書かせるために、3 年次からの指導が必要である。特に文献講読により知識を深め、4 年次のフィールドワークにつなげることが重要である。卒論指導においてもある程度教員間で最低限の作法（卒論の組み立て、引用箇所の明示等）を共有する必要がある。



ザイン専攻学生合同、合計7名)、報告会での発表(2名)

④支援を要する学生への対応

・9月卒業2名指導、休・退学対策(粘り強い面談指導)

⑤留学生への対応

・才田教授を中心とした日本語の指導

(3) 教員研究活動の推進

①外部の競争的資金採択状況(提供団体と件数)

社会技術研究開発センター(JST)1件、国交省・地域づくり協会2件、  
経済産業省分野の助成2件、第一銀行奨学財団助成1件、環日本海推進機構1件  
科学研究費:研究代表1件、分担研究者5件

②学会発表活動状況

研究論文掲載件数(査読有)2件 学会研究発表7件

③教員の専門分野による地域貢献活動状況

高校出講件数12件 地域・市民向け講演73件

④専攻教員間の国際貢献活動・研究活動の情報交換会実施(1回/2月)

第1回1月浦山教授(沖縄・中国での居住空間研究)

第2回3月上坂教授(アイスランド地熱発電研修報告)

2. 課題

ここ数年環境専攻への希望者は30名程度で推移しているが、スポーツ活動を行っている学生が多い。何よりも学問への興味や意欲を高めさせ、社会科学系における環境学の意義を理解させることが教育上の重要課題と考える。以下は今後取り組むべき課題である。

(1) 新カリキュラムの検討(継続)

- ・育成目標を明確にするための授業科目間の再調整や見直し、新設科目の設置などを踏まえ平成26年度も継続的に検討
- ・地域から求められる人材教育の模索とそれに向けた教育内容の検討

(2) 教育指導

- ・学力差や資格取得のための支援体制の充実、空間の整備(含場所学び場)
- ・環境デザイン実習を活用した地域貢献活動の継続
- ・学生による環境関連企業に関する調査研究、そこで必要な人材の把握(ゼミや専攻授業時間を活用した指導)
- ・国際的視野の醸成とともに海外進出企業へ提供できる人材の育成

(3) その他

- ・地域貢献活動への専攻生の参加促進策について
- ・海外研修、留学の促進と経済的支援の在り方について

## 1. 実績・現状

### (1) 専門演習

9名の教員が専門演習Ⅰと専門演習Ⅱを担当した。教員別の学生数は次の通りである。

専門演習Ⅰ：大西教授7名、高橋（哲）教授7名、長尾教授7名、村瀬教授7名、後藤准教授5名、小西講師8名、谷口講師7名、専門演習Ⅱ：大西教授8名（内、休学者1名、退学者1名）、高橋（哲）教授10名、長尾教授12名、村瀬教授11名、後藤准教授3名、小西講師8名、谷口講師4名、浜松教授1名（休学者）

退学者1名は病気が原因であった。休学者2名の内、1名は海外体験希望によるものであり、他の1名は勉学意欲の低下であった。

また、留学生は3年が9名、4年が13名である。

これ以外に研修生指導を高橋（哲）教授が1名、村瀬教授が1名行なった（いずれも留学生）。

### (2) 経営情報実習

#### 1) 実習概要

これまでに学んだ経営情報に関する専門知識を、企業における実習を通して、より実践的な知識にブラッシュアップすることを目的に行なわれた。併せて、課題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を醸成することを目的とした。対象学年は3年で47名が参加した。実習先は株式会社ジャパンフラワーコーポレーションと株式会社まちづくりとやまの2社である。

#### 2) 実習の方法

学生を2つのグループに分け、「ジャパンフラワーコーポレーション」と「まちづくりとやま」の本社で実習を行なった。各グループでは更に4~5名のチーム（各グループそれぞれ5チーム）に分かれて作業を行なわせ、各チームにはそれぞれ企業から課題が与えられ、それらをチーム全体で検討しながら作業が行なわれた。最終日に成果発表会を行なった。

#### 3) 各チームに与えられたテーマ

各チームにはそれぞれ以下のテーマが与えられた。

「ジャパンフラワーコーポレーション」では、全体のテーマは「ロイヤルカスタマーを作る」で、各チームには次のサブテーマが与えられた。「社内マニュアルの作成」、「顧客向け花図鑑の作成」、「クレーム対応」。

「まちづくりとやま」では、全体のテーマは「中心市街地の活性化」で、各チームには次のサブテーマが与えられた。「高齢者向けの歩行者マップの作成」、「中心市街地広報のためのパネル作成」、「中心市街地の店舗調査とデータベースの作成」、「コミュニティバスの利用者増加策」、「イベント空間『グランドプラザ』の利用者増対策」

#### 4) 学生の評価

学生へのアンケート結果から主な意見を抽出すると次の通りである。

- ①身についた能力という視点から：「グループディスカッションを通して、グループとして一つの意見にまとめる力」、「責任感」、「チームで協力して仕事を進める能力」、「他人の視点になって考えること」、「忍耐力や協調性」

②その他の意見として：「人見知りだった自分が、話したこともない人と積極的に会話することができた」、「実際に体験することの重要性を確認できた」

#### 5) 実施企業の評価

「学生はまじめに取り組んだ。また、成果を社内で使いたい」という言葉を頂いた。

### (3) 卒業研究

専門演習の集大成として、卒業研究発表会を26年2月10日に実施し、63名が発表した。研究テーマは以下の通りである。

「スターバックスの経営戦略」「現代のサイバー犯罪」「ガソリン車からエコカーへ」「環日本海圏の貿易分析と将来の展望」「コーチング」「コンビニの現状とこれから」「製菓業界の変化」「SNSの発展と現代人の健全な共存」「中国でのアニメーション展開」「伏木富山港の歴史と展望」「富山石倉町に関する研究」「日本と世界における有事の金の一考察」「北陸新幹線が富山県にもたらす影響」「中国の物流発展」「中国でのコンビニ競争」「デファクトスタンダードの競争戦略」「セブンプレミアム」「清涼飲料水の普及と企業戦略」「中国の人口高齢化」「決済を伴うセルフサービス」「日中合弁自動車企業の流通と販売」「人材育成マネジメント」「スマートフォン」「日本での残業」「スターバックスとドトールの経営」「日本のバブル崩壊の教訓と中国への示唆」「ニートが及ぼす日本への影響」「メディアのあり方」「中国民族自動車メーカーの戦略」「電子マネーのセキュリティ問題」「人材育成と経営戦略」「資生堂のマーケティング」「中国の経済動向と貿易構造」「雇用形態の変化と消費低迷」「リーマンショック後の変動とその要因」「富山県の若年雇用の現状」「少子高齢化社会」「日中の年金制度の比較」「家電販売の季節変動」「ショッピングセンターが商店街に与える影響」「ソーシャルゲームの問題と解決策」「プライベートブランド商品からみる地場スーパーの発展」「環境対応からの自動車製造」「流通系電子マネーの経営戦略」「キャラクタービジネス」「小売業のPB戦略」「あいの風とやま鉄道の今後」「インターネットマーケティングにおけるプロモーション戦略」「セレクトショップの未来」「音楽市場の低迷」「セブンイレブンの強さ」「ユニクロの経営戦略」「東京デズニールランドのマーケティング戦略」「スターバックスの経営戦略」「飲食店の新しいビジネスモデル」「アフリカの貧困」「SNS・無料アプリとコミュニケーション」「風の盆と八尾のまちおこし」「豊田新屋立体事業」「スマートフォンの利用」「スマートフォンの普及」「電子書籍と音楽配信」

## 2. 課題

専門演習では学生への個別指導を行なっているが、問題のある学生を担当した教員は多くの時間とエネルギーを費やさざるを得ないのが現状である。また、留学生の中には日本語能力のかなり低い者がいて、実習や卒業研究での指導が困難な状況が見られた。これらについては、専攻教員間で情報交換をしながら全員で指導をあたる気持ちを持って対処したが、効果的な解決策は見つけられなかった。今後も試行錯誤しながら対処していくことになる。

一般の講義については、学生のレベルの幅が広いが、中間層に照準を置いた講義になる傾向が見られる。中間層に照準を合わせながらも、上下の層にある程度満足のいく講義内容を今後も試行錯誤しながら行なっていくことが課題である。

## 6. 留学生教育

### 1. 実績・現状

#### (1) 総数

	1年生	2年生	3年生	4年生	研究生	計
学部留学生	17名	10名	21名	28名	0	76名
交換留学生			13名	0	3名	16名
研究生					3名	3名

	出身国と人数	計
学部留学生	ネパール2名、韓国2名、中国71名、フィリピン1名	76名
交換留学生	フランス（前期1名、後期1名）、ロシア（前期3名、後期2名）アメリカ（後期1名）中国8名	16名
研究生	中国3名	3名

#### (2) 奨学金受給状況

名称	月額	人数
学習奨励費	48,000円	5名
朝日国際教育財団	25,000円	5名
富山県国際交流奨学金	50,000円	5名
富山県国際交流奨学金	10,000円	1名
大学独自の奨学金	20,000円	58名

(休学者2名)

#### (3) 入居状況

大学が用意した留学生用宿舎29人、民間アパート43人、公営住宅1人。

関係者の行き届いたところまで留学生の面倒を見ていたことにより、留学生たちが安心して且つ充実な留学生活が送られた。それについて留学生派遣側からも評価を得ている。

今後温かく支援をし続けると同時に留学生の自立性を育てることも必要だと思う。

#### (4) 日本語教育

早く日本での生活に慣れるように、日本の大学勉強についていけるようにするために、将来国際社会に有用な人材になってもらうために、留学生に対して日本語の教育に力を入れた。留学生を対象にした日本語のクラスは以下のとおり。

基礎日本語Ⅰ・Ⅱ（週2回）、実践日本語Ⅰ・Ⅱ（週2回）、上級日本語Ⅰ・Ⅱ（週1回） 日本語補習（週1回）、日本語総合（集中講義）
---

1年次入学時にプレースメントテストの成績によりクラス分けをして日本語の授業を行っていた。

新カリのシステム導入後、卒業までに日本語能力検定試験1級を取らないと卒業ができないという意識を今留学生の中で少しずつ持つようになった。各自が日本語の習熟度によって、自主的に検定試験を受けるようになった。昨年12月までの検定試験の成績は次の通り。

	総人数(人)	N1合格者(人)	N2合格者(人)
1年生	13		2
2年生	16		2
3年生	9	1	7
4年生	21	6	2

日本語の成績はまだ喜べない状態なので、迅速に留学生の日本語のレベルを高め、日本人とのコミュニケーション能力を養成することは今後の課題と思い、専任と非常勤の日本語授業の担当者との緊密な連携、情報交換、授業改善に力を入れることは目下の急務であると認識した。

#### (5) 留学生活動指導

毎月2回ぐらい、水曜の午後、1年生留学生を対象とした特別教養演習を実施(銭輝支援員・湯による)。留学生の悩み、困ることについての相談、遵守すべき規律、守るべきルール等の指導。

授業のほかに、なるべく日本の地域社会や日本人との触れ合いができるチャンスを与えようと考え、下記の体験活動を実施し、イベントへの参加を案内した(安全のために山崎・湯が殆ど同行した)。

- ・外国人留学生富山県内研修(富山市内お花見)、4月6日(土)、27名
- ・外国人留学生富山県内研修(チューリップフェア会場 五箇山)、4月27日(土)、27名
- ・外国人留学生富山県内研修(中部山岳国立公園)、5月11日(土)、23名
- ・国際交流サロン(田植え体験)、5月29日(水)、3名
- ・国際交流サロン(百万石まつり参加)6月1日(土)~2日(日)、8名
- ・外国人留学生と中国語を学ぶ社会人との異文化交流会、6月19日(水)、30名
- ・外国人留学生書道体験、7月26日(金)、4名
- ・外国人留学生地域活動に参加(佐々成政戦国時代祭り)、7月28日(日)、5名
- ・外国人留学生日本文化体験(巻き寿司体験)、8月7日(水)、28名
- ・国際交流サロン(日本人学生との富士登山)、8月18日(日)~20日(火)、20名
- ・外国人留学生富山県内研修(風の盆前夜祭)、8月22日(水)、14名
- ・外国人留学生富山県内研修(黒部峡谷紅葉狩り)、11月4日(月)、22名
- ・外国人留学生日本文化体験(書道体験)、11月7日(木)、12名
- ・富山市国際交流フェスティバル参加(留学体験発表)、11月10日(日)、17名
- ・外国人留学生日本文化体験(華道体験)、11月13日(水)、26名
- ・富山国際大学留学生総会・懇親会、12月20日(金)、53名
- ・外国人留学生富山県内研修(立山山麓雪の祭典参加)、2月15日(土)、7名

## 2. 課題

留学生が勉学以外に地域社会の活動、イベントに参加することにより、日本の社会、日本人、日本事情を理解することに大いに役立った。

今後より充実な留学生活を送ることができるために、留学生一人ひとりに日本人と触れ合い、友達作り、積極的にコミュニケーションが取られるように努力をしてもらいたい。教育側がより質のいい教育、もっときめ細かな指導を行わなければならない。留学生が卒業後に日本社会に乃至母国に貢献が尽くせる有用な人材になれることを目指して頑張りたいと思う。

## 7. 教育改善・FD活動

### 1. 実績・現状

- (1) ディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーの策定・公開
  - ・平成 24 年度末に策定した現代社会学部ディプロマ・ポリシーの公開
  - ・現代社会学部カリキュラムポリシーの策定・公開
- (2) 新学期オリエンテーションの見直し・改善
  - ・単位の修得、履修方法に関するわかりやすい説明の徹底(とくに 1 年次生)
  - ・時間配分の見直し、教務・学生生活に関する説明の重複回避
  - ・配布物の見直し(緊急性が低い配布物はオリエンテーションで配布しない)
- (3) 授業方法の改善
  - ・科目毎に到達目標を設定し、それらを学生が達成できるような授業展開を目指した。
  - ・全科目で最低でも授業 1 回分をアクティブ・ラーニングの時間に充てることとした。
- (4) 授業アンケートの改善・公開
  - ・総合評価や到達目標の達成度等を測るため、数値評価(5 点満点)を導入し、科目毎に数値評価設定項目の平均値を学生に公開した。
  - ・アクティブ・ラーニングや授業での工夫のうち、どんなことが効果的であったのかを学生に問い、それぞれの科目において効果的な授業方法を見出せるようにした。
- (5) インターナショナル・プログラムズ参加者、3 年次編入学生の単位認定方針の決定
- (6) 一部科目のカリキュラム変更(平成 26 年度から適用)
  - ・以下の目的に合わせて開講方法、配当年次の変更案を策定、学則変更を実施した。
  - ・秋季入学の導入…「キャリア・デザイン講座」「キャリア支援講座」の Semester 化
  - ・留学促進…「教養演習Ⅱ」英語クラスの設定、「実践英語」配当年次を 1・2 年に変更
  - ・インターンシップ参加促進…配当年次を全学年に変更、参加機会の複数化
- (7) FD 活動
  - 1) FD 委員会の設置と活動目標

現代社会学部独自の FD 委員会を設置し、以下の目標を置いて活動を行うこととした。

    - ①現代社会学部教員に授業改善についてのアンケート調査を行い、取り組んでいる試みを分類し学生の満足度と対比させる。
    - ②授業の到達目標の提示について、その方法、内容等が十分であることを授業評価アンケートや相互授業参観等で確認する。
    - ③教員個々が授業で行っている授業改善の取り組みを、相互授業参観を行うことで情報共有し、更なる授業改善へ繋げる。
  - 2) 現代社会学部 FD ワークショップの開催
    - ①第 1 回 FD ワークショップ 平成 25 年 7 月 25 日(木) 参加教員：18 名
      - ・テーマ：「授業参観による授業改善ブレインストーミング(1)」
      - ・目的：授業改善につながるアイデアを共有する
    - ②第 2 回 FD ワークショップ 平成 25 年 9 月 11 日(水) 参加教員：19 名
      - ・テーマ：「授業手法に関する情報共有」
      - ・目的：取り入れた授業手法及び力を入れている授業改善方法に関する情報共有

- ③第3回FDワークショップ 平成26年1月8日(水) 参加教員22名
- ・テーマ：「授業参観による授業改善ブレインストーミング(2)」
  - ・目的：以下の科目の授業を相互に参観し、授業改善のヒントを得る  
学生にとって良い授業とはどんなものか、共通理解を目指す
  - ・対象科目(担当者)：「経営戦略論」(小西)、「現代社会時論Xクラス」(大西)、「現代社会時論Yクラス」(後藤)、「哲学の基礎」(大谷)、「観光・観光政策の歴史」(佐藤)、「情報システム論」(高尾)、「環境基礎演習」(高橋ゆかり)
- 3) 現代社会学部FD研修会 平成26年3月12日(水) 参加教員18名
- ・講師：①(株)ベネッセコーポレーション 神崎 則男 氏  
②NPO法人NEWVERY FD担当フェロー 樋栄 ひかる 氏
  - ・テーマ：①「自己発見レポート(大学生基礎力調査結果)の見方と本学の傾向」  
②「授業での自主的発言を促す授業運営法」
  - ・目的：①教育活動をはじめとする今年度取り組んだ活動による効果を把握する。  
②学生が積極的に参加するような授業を展開するためのヒントを探る。

## 2. 課題

### (1) カリキュラムの体系化・見直し

- 1) カリキュラム・ツリーの整備、科目のナンバリング、科目体系の見直し  
「カリキュラム整備・検討チーム」を設置し、下記2)の策定に向けた検討を進める。
- 2) 平成28年度新カリキュラムの検討・策定  
現カリキュラムの完成年度となる平成27年度以降も、現カリキュラムの大枠は維持するが、以下の点を考慮した新カリキュラムを平成28年度に導入すべく検討を進める。
  - ・ヨーロッパ系語学科目(フランス・スペイン語)の新設、環日本海語学科目の見直し
  - ・留学のためのカリキュラム整備・検討
  - ・資格関連科目の見直し、情報リテラシーの教育方法再検討
  - ・教養科目の再検討、「憲法」の平成27年度先行導入を検討

### (2) FD活動の活性化

- 1) 授業改善のための活動
  - ・「教員一学生間の授業に関する対話シート」の実施(任意)  
学期中途における授業評価を行い、当該授業後半での授業改善に役立てる。
  - ・教員相互による授業参観FDを継続し、お互いの授業改善に役立てる。
- 2) 成績階層別教育方法の検討  
学生の基礎学力とGPAの関係を分析し、階層別教育方法のあり方を探っていく。
- 3) 達成度評価指標の作成  
学生の到達目標達成度を測定すべく計量的分析に基づく達成度評価指標を作成する。

### (3) 休退学の防止

- ・成績上位層の他大学転学が増加しているため、(2)の2)、3)での成果をもとに学生の能力にあった教育方法を早期に実践し、成績上位層の授業満足度を上げる。
- ・成績下位層を見捨てることなく、授業や課外活動においてモチベーションを上げ得る道を見つけさせ、それに熱中させることで休退学防止を目指す。

## 8. 学生活動・生活支援

### 1. 実績・現状

- (1) 学生主体の大学づくりに向けた取り組み
  - 1) 学友会役員と学長・学務部長・学部学務委員長との懇談会開催(平成 26 年 1 月 28 日)  
学生との意見交換、学生生活・授業に関する要望の聴取
  - 2) 学生主体の大学行事運営の実現  
平成 26 年度新入生オリエンテーションにおける歓迎イベントの運営(平成 26 年 2 月から学務委員を交えて討議し実現)
  - 3) 平成 26 年度大学祭開催時期の変更  
10 月 2 週から、資格試験や部活動の試合と重ならない 10 月第 4 週に変更  
(平成 26 年 10 月から、学務委員と平成 26 年度大学祭実行委員が討議し実現)
- (2) 学生行事とその支援  
スポーツ文化交流会(平成 25 年 5 月 28 日)、大学祭(紅嶺祭)(平成 25 年 10 月 12～13 日)、東黒牧キャンパス交通安全運動(毎月 1 回)、食堂利用調査(平成 25 年 11 月)
- (3) 学生生活関係アンケート
  - ・学生生活アンケート(平成 25 年 9 月 29、30 日実施)
  - ・卒業生アンケート(平成 26 年 2 月、各専攻卒業論文発表会終了後に実施)
- (4) クラブ・サークル活動(休部中のものを除く)  
[部・10 団体]硬式テニス部、硬式野球部、サッカー部、女子ハンドボール部、男子バスケットボール部、ボート部、軽音楽部、茶道部、吹奏楽部、ボランティア部  
[サークル・12 団体]ES サークル、環境サークル、芸術サークル、国際交流サークル、釣りサークル、テーブルゲームサークル、バドミントンサークル、ビーチボールサークル、B 研(ビジネス資格研究会)、放送サークル、ラベンダーサークル、日経講読会

### 2. 課題

- (1) 奨学金・奨励金制度の見直し  
平成 24 年度以降のカリキュラムでは部活動学生の奨学金受給継続のハードルが高くなっているため、部活動成績等も考慮に入れた基準の見直しを検討する。
- (2) 学生主体の活動のさらなる充実と活動の場の提供
  - ・形骸化しているクラブ会のあり方を検討する。
  - ・部・サークルの活動予定や試合日程を掲示やホームページ等で学内外に公開して、学生・教職員をあげて部・サークル活動を支援する体制をつくる。
  - ・学生生活アンケートの作成にも、学生の意見を採り入れるようにする。
  - ・大学会館中講義室を学生活動スペースに戻し、空き研究室等の有効活用も検討する。
- (3) キャンパスの環境整備と施設の充実
  - ・里山整備事業等のキャンパス整備は継続して実施する。
  - ・キャンパス内の草地の美化や、老朽化した施設・座りにくい教室の椅子等のリニューアルを緊急性や効果の大きいものから予算の範囲内で実施する。
  - ・学生から要望の多い本格的な売店設置の可否を引き続き検討する。

## 9. キャリア支援

### 1. 実績・現状

#### (1) キャリア講座

現代社会学部のキャリア講座として、1年次のキャリアデザイン講座と3年次のキャリア支援講座がある。キャリアデザイン講座では、今年度は基礎学力向上を第一の目標とした。具体的には文章能力を高める内容を主体とした。キャリア支援講座は例年通り実践的な内容を盛り込んだ講座とした。キャリア支援講座の主な内容は次の通りである。「海外インターンシップ体験発表会」、「就職試験プレテスト」、「就職活動の基礎と業界研究」、「公務員試験の勉強の仕方」、「企業研究」、「OB/OGから聞く就職活動の仕方」、「自己分析とキャリアアプローチ」、「分かる、書ける、受かる！履歴書講座」、「グループディスカッション」、「就職準備の実践」、「就職活動におけるマナー」、「就職活動におけるプレゼン技術」、「人事担当から見た面接NG集」、「企業見学」、「模擬面接実習」、「企業紹介」、「就職サイト活用講座」、「就職活動体験談（4年生発表）」。

#### (2) 教養演習

今年度は1,2年次の教養演習で毎回約30分のSPI演習を導入した。これはキャリア講座と連携して基礎学力向上を目指したものである。

#### (3) インターンシップ

例年行なわれているインターンシップ推進協議会主催の夏季インターンシップには3年生36名が参加した。また、本学独自のインターンシップとして今年度は星野リゾートと富山信用金庫を設けた。星野リゾートは8月と2～3月の2回実施され、8月は3年生1名、2～3月は2年生3名3年生1名が参加した。また、富山信用金庫は3月に実施され、2年生3名、3年生2名が参加した。

国際交流センターの協力を得て、25年3月に中国江蘇省・南通大学およびタイ・ファー・イースタン大学とインターンシップを来年度実施することで、本学と両大学との間で合意した。南通大学では南通東レ株式会社でインターンシップが行なわれる予定である。また、タイ・ファー・イースタン大学ではオイスカ・タイ農業研修センターでインターンシップが行なわれる予定である。

#### (4) 個別指導

例年通り、履歴書指導、面接指導、キャリアカウンセリングを個別に実施した。また、求人票による企業紹介も適性を見ながらきめ細かく個別に行なった。

#### (5) 公務員・金融・国際関係企業希望者に対する指導

就職先の質的向上を目指すために、大西教授、後藤准教授、村瀬教授による公務員・金融・国際関係企業希望者に対する対策プロジェクトチームを結成した。25年7月に2年生と3年生のゼミで希望調査を実施した。その結果、27名が公務員・金融希望者で、内、2年生15名、3年生12名であった。これらの学生に対して25年8月から26年3月の間、

個別に面談を行い、準備の仕方等について指導した。

#### (6) 公務員対策

質の高い学生の受入体制を整えるために、25年2月に高橋（光）現代社会学部長、大西教授、後藤准教授、山田教務課職員で公務員講座開設準備プロジェクトチームを結成した。その結果、26年度から次の講座を開設することとなった。

講座名称：PAP（パブリックサーバント・アプリケーション・プログラム）、講座：次の3コースを用意：公務員行政職コース（ステップ1～4の4年コース、4ステップ合計で285回427.5時間）、消防警察コース（1年間で75回112.5時間）、消防警察短縮コース（1年間で30回45時間）

#### (7) 学内合同企業説明会

26年1月東黒牧キャンパスで学内合同企業説明会が開催された。約90社が参加し、両学部から約90名の学生が参加した。

#### (8) 就職状況

26年3月現代社会学部卒業生の就職率は100%で前年度の95%に比べ5%ポイント上昇した。また今年は大手銀行に3名、上場企業に14名と質の面でも一定の成果を挙げることができた。

## 2. 課題

来年度も引き続き就職先の質の面の向上を図ることが課題である。そのためには、学生の基礎学力の向上が避けて通れない。また、ともすれば中小企業だけに目を向きがちな本学学生に対して大企業にチャレンジさせる啓蒙活動も必要である。更に、入り口で質の高い学生の数を高めることも必要になる。このための受け皿として26年度から公務員講座「PAP」を開講するが、この講座を魅力あるものにする努力も今後必要になる。

## 10. 国際交流

### 1. 実績・現状

#### (1) 海外教育機関との協定

- 1) 新たに「学術交流及び学生交換協定」を締結大学
  - ・中国 南通大学（学術交流及び学生交換）H25.12.12.31 締結
- 2) 新たに「学生募集に関する協定」を締結した日本語学校
  - ・徳島徳橋日本語学校（外国人私費留学生募集）H25.9.21 締結
  - ・南通江戸外国語訓練養成学校（同上）H25.9.23 締結
- 3) 学術交流及び学生交換協定の更新を行った大学
  - ・大邱大学校経商大学（韓国）H25.9.11 更新
  - ・ラ・トローブ大学（オーストラリア）H25.12.3 更新

#### (2) 受入学生数 33名

- ・学部生 18名（天津社会科学院 16名、大連海洋大学編入学 2名）
- ・交換留学生 15名（大連海洋大学 5名、中国海洋大学 3名、ウラジオストック経済サービス大学 4名、EMBA（仏） 2名、PSU（米） 1名）

#### (3) 本学学生の海外派遣数 30名

- 1) インターナショナルプログラムズ(長期) 5名
  - ・1年間（米国 1名、中国 3名）
  - ・6ヶ月間（米国 1名）
- 2) インターナショナルプログラムズ(短期) 1名
  - ・5週間（オーストラリア 1名）
- 3) 異文化研修(中国 8日間) 7名
- 4) 異文化研修(韓国) 8日間 3名
- 5) 異文化研修(仏国) 12日間 4名
- 6) 国際交流実習（タイ）15日間 10名

#### (4) 国際交流に関するイベント・研修等への参加学生数（留学生と日本人の合計人数）

- 1) 留学生・日本人学生の交流会 4回開催 61名（延べ人数）
- 2) 留学生のための日本文化体験 13回開催 262名（延べ人数）

#### (5) 国際交流フォーラム「姜尚中氏と語ろう国際交流!」の実施

開催日時 平成25年11月17日(日) 13:00~16:30  
開催場所 富山市東黒牧65-1 富山国際大学 大講義棟 I  
参加人数 一般 164人 学生 158人（現社 117名） 教職員 56人 合計 378人

#### 開催概要

- 【第1部】 基調講演 「私が生きた日本とアジア」  
姜 尚中 聖学院大学全学教授
- 【第2部】 学生の発表（現社 3名）  
北條怜左 現代社会学部3年「一年間の韓国留学で得たこと」  
下島 斎 現代社会学部4年「帰国子女の私から見た日本と日本人の不思議」

- 李 麗金 現代社会学部 4 年「日本留学の感想」  
【第 3 部】 パネルディスカッション「アジア諸国との共存共生に向けた民間交流」  
パネリスト 姜 尚中 聖学院大学全学教授  
宮田妙子 NGO ダイバーシティとやま代表  
鈴木康雄 富山国際大学客員教授（元読売新聞外報部長）  
コーディネーター 才田春夫 国際交流センター長

## 2. 課題

- (1) 学部留学生受け入れに関して、海外協定校からの入学者減少と質の低下が著しい。  
今後は学生数確保よりも質向上（特に日本語能力）に重点を置いた募集活動にすべきである。その一方で、日本の日本語学校からの入学者確保の強化や、海外協定校からの編入学生の確保で入学者数と質の向上を図るべきである。そのため大学間の 2+2 の拡大、短大との 3+2 の拡大に努力する必要がある。
- (2) 日本人学生の海外派遣数を如何に増やすかも大きな課題である。魅力ある派遣プログラムの開発、留学と一体化したカリキュラム開発、英語圏の協定校開拓、奨学金の確保（日本学生支援機構、大学、民間、海外大学など）に努力する必要がある。

## 11. 地域交流・地域貢献

### 1. 実績・現状

2013 年度における現代社会学部教員によるエクステンション・カレッジ及び同プレビュー講座の実施状況は以下の通りである。

No	担当	講座名	曜日	時間帯	開講日
特別	上坂	自然エネルギー教室	木	19:00~20:30	5/16, 30 6/6, 207/4, 18
特別	長尾	北陸新幹線開業を見据えた観光・交流戦略について考える	金	19:00:~20:30	8/23, 30 9/6, 13, 20
1	尾畑	水から富山、世界を見よう	金	15:30~17:00	7/5, 12, 19, 26
2	後藤	合併後の富山市を“いま”考えるー地域は輝いているか?	土	13:30~15:00	8/31、9/7, 14
5	湯	中国事情〔会場:東黒牧キャンパス〕	水	10:40~12:10	7/24, 31、8/7
20	才田	ボランティア学ー地域と人を活かすボランティアについて考えてみましょう	木	15:30~17:00	7/4, 11, 18, 25 8/1
21	大西	経済事情(春講座)ー物価はどうして決まるの?	土	13:30~15:00	6/15, 29 7/6
22	大西	経済事情(秋講座)ー雇用はどうして生まれるの?	土	13:30~15:00	11/9, 16, 30
23	大西	経済事情(冬講座)ーこれからの私たちの暮らしは?	土	13:30~15:00	2/1, 15, 22
27	湯	実用中国語教室(前期)〔会場:東黒牧キャンパス〕	水	10:40~12:10	5/8, 15, 22, 29 6/12, 19, 26 7/3, 10, 17
28	湯	実用中国語教室(後期)〔会場:東黒牧キャンパス〕	水	10:40~12:10	10/9, 16, 23, 30 11/6, 13, 20, 27 12/4, 11
29	村瀬	初歩からの会計	水	18:00~19:30	5/15, 22, 29
30	長尾	顧客との継続的な関係を重視したマーケティング実践	水	18:50:~20:30	8/21, 28 9/4, 11, 18

### エクステンション・カレッジプレビュー講座

担当	講座名	曜日	時間	開講日
大西	「日本経済」の何が問題なのだろう	土	13:30~15:00	6/1
大西	これからの働き方について	土	13:30~15:00	10/26
大西	市場から見る日本経済	土	13:30~15:00	1/25

## 2. 課題

集客力向上が課題であるとともに、地道な市民との交流が望まれる。常に、学部教員がサテライト・オフィスに出かけるような講座、イベントあるいは学生との取り組みを実施することが課題であろう。また、卒業論文等における優秀な研究等については、サテライト・オフィスでの発表会も検討すべきであろう。また東黒牧キャンパスにおける授業のサテライト・オフィスへの公開、配信については具体化に向けて検討を進めている。

## 12. 入試対策

### 1. 実績・現状

#### (1) 平成 26 年度入試の結果

- 1) 推薦入試においては、定員 55 名に対し 54 名の入学者を確保。一方で、一般・センター利用型では、合計 60 名定員に対して 35 名の入学者となり、外国人留学生の入学者 14 名、AO 入試入学者 7 名と合わせ、総計 110 名の入学者。
- 2) センター利用型入試(前中後)志願者は、のべ 64 名と前年比+12 名だったが、入学者は-1 名の 14 名。普通科の生徒の志願者は増えたが、入学にまで結びついていない状況。
- 3) 日本人入学者数は、改組後 7 年では 116→99→112→85→94→82→96 と推移。  
今年度の学部志願者は、延べ 196 名で昨年比+40 で、入学者は 12 名の増加。

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
定員数	120	→	→	→	→	→	→
志願者数	215	187	207	169	172	156	197
合格者数	187	158	183	153	162	149	183
入学者数	132	119	136	104	105	98	110

#### (2) 入試種別による高校別入学者数

入試種別	人数	前年	高校別入学者数
推薦・指定校	20	6	富商 4、付属 3、富西 2、上市 2、みどり野 1、雄山 1、富一 1、富山いずみ 1、富北 1、富工 1、となみ野 1、小矢部園芸 1、高朋 1
推薦・専願	9	無	富一 4、富いずみ 1、龍谷富山 1、富北 1、新湊 1、福井道守 1
推薦・併願	5	9	上市 1、富商 1、富西 1、付属 1、伏木 1
推薦・諸活動	20	20	富一 3、八尾 3、阿賀黎明 2、富商 2、創造学園 2、龍谷富山 1、富工 1、高工 1、氷見 1、本庄 1、由利工業 1、神戸星城 1、大村城南 1
AO	7	10	富商 2、高商 1、伏木 1、となみ野 1、富一 1、付属 1
一般・前	19	14	福光 3、付属 3、雄山 2、大門 2、認定 2、富いずみ 1、富南 1、高岡 1、伏木 1、富一 1、高一 1、千葉工業 1
一般・後	2	2	桜井 1、富南 1
特奨・前	0	3	
特奨・後	0	1	
専門	無	2	
センター・前	13	14	八尾 4、富一 2、入善 1、富山 1、富東 1、富南 1、呉羽 1、付属 1、認定 1
センター・中	1	0	八尾 1
センター・後	0	1	
小計	96	82	
特別入試	14	16	天津 10、青島 1、他 3
合計	110	98	12 名：富山第一 9 名：富山商業 国際大学付属 8 名：八尾 以上の 4 校出身者 38 名が県内出身者 86 名に占める割合 44.2% 3 名：上市、雄山、富山南、富山西、富山いずみ、伏木、福光、認定 2 名：富山北部、富山工業、大門、となみ野、龍谷富山

			<p>1名：入善、桜井、新川みどり野、富山、富山東、呉羽、新湊高岡、高岡工芸、高岡商業、氷見、小矢部園芸、高岡第一、高朋</p> <p>以上県内出身者 86 名</p> <p>県外出身者 10 名、留学生 14 名、合計 110 名</p>
--	--	--	--

## 2. 課題

### (1) 対外的にアピールできる本学の売り・魅力の発信

- 1) 就職実績を含め充実した就職支援体制。キャリア教育の徹底と PAP 講座の実践。公務員試験合格者、優良企業内定者の増加。
- 2) 留学支援体制の充実。
- 3) 学生個々の状況に応じて、適切な目標を持たせる学生生活の指導。
- 4) キャンパスの環境改善。自然の豊かさと人工的環境の融合したおしゃれなキャンパス空間の創造。
- 5) 入学した学生が不満をもたない学生生活。とりわけ授業への満足度のアップ。FD 活動の更なる推進。

### (2) 事故や事件などのマイナス・イメージを払拭する明るさと活気の創造

- 1) 日頃からルールやマナーなど規範意識をもたせる学生指導。
- 2) 学生と教職員による各種活動のタイムリーな発信。
- 3) 部活動の活性化。HP を利用した情報の発信。

### (3) 特別奨学生入試の実施方法の検討

授業料減免以外に、この入試種別で入学した場合のメリットについて検討し、入試方法とリンクさせる。

### (4) 重点校対策

本学に多くの生徒を送ってくれている高校、今後更に入学者数を増やしたい高校の信頼を勝ち得るために、当該高校出身の在学生の活躍の様子をタイムリーに発信する。

### (5) 女子の入学者増

女子生徒にとって魅力ある大学。部活動（例. 吹奏楽部）や就職実績（例. 金融業、旅行業）。

### (6) 新幹線開通を見据えた広報

長野県のほか、埼玉などの関東圏を視野に入れた広報活動を検討。

### (7) 留学生対策

優秀な留学生を確保するために秋入学を実施し、特に 2 + 2 による入学者数を増やす。

## 13. ホームページ、広報活動

### 1. 実績・現状

#### (1) HPによる広報活動

2012年末の大学ホームページリニューアル後、観光・環境デザイン・経営情報の各専攻のホームページのデザインを統一したものにしました。また、新規に産業界GP事業関連のホームページを作成した。各専攻の話題や注目情報・ニュースなど約60件を追加した。その他、シラバス、教員紹介、紀要データなどを更新・追加した。

2013年度の総アクセス件数は大学全体で約433万件(ホームページ、画像、PDFファイル等を含む)であり、一日平均で約11,800件となっている。また、サーバにかかる負荷やホームページ格納スペースについても十分な余裕がある状況である。

#### (2) 広報活動

平成25年度から、現代社会学部の活動状況を広く社会に広報するために、大学の特徴ある授業、大学のイベント、学生の活動、教員の社会活動や研究などに関して積極的に報道機関に取材依頼をお願いすることとなった。平成25年6月～平成26年3月17日までの期間に富山国際大学現代社会学部の教員並びに学生の記事が、北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞等に合計89本掲載された。

またこれらの記事を大学のホームページの「新聞記事トピックス」コーナーにアップしデータベースとして過去にさかのぼり閲覧できるようにした。北日本新聞と北陸中日新聞に関しては、許可を得た後新聞記事そのものを貼り付け、その他の新聞に関してはその内容を要約して「新聞トピックス」コーナーに載せた。現在、平成25年12月17日の分まで閲覧可能となっている。

### 2. 課題

#### (1) HPによる広報活動

現状の更新頻度であれば更新作業自体は情報センター業務にも大きな負担はかかっていない。また、システム関連の課題についても今のところは問題となっていない。

今後は情報のスピーディーかつタイムリーな更新を行なえる体勢をいかに維持していくかが課題である。

#### (2) 広報活動

①大学の教職員側からの積極的な取材依頼は、平成26年度も引き続き行う。その回数を増やすためには、①教員の講義において外部講師を呼ぶ場合は必ず取材を依頼する、②部活の顧問の教員は学生の活動状況(ボランティア活動を含む)を把握し、随時取材依頼する、③職員もそれぞれの部署でイベントや特別講義等を行う場合は依頼する、④教員はその研究活動を積極的に取材してもらう(読売新聞には「研究室へようこそ」コーナーがある)、等の行動が必要である。

②新聞記事のデータベース作成作業を、平成26年度も継続するためには、教員、総務課、入試広報課、情報センター、図書館等で業務分担をする必要がある。現在、情報センター長を中心にチームを検討している。

- ③学生の活動を出身高校に伝えるために、新聞記事を高校別のニュースレター（平成 26 年度から作成）に添付したり、高校訪問時に持参できるように北日本新聞、北陸中日新聞と交渉している。許可が得られ次第、北陸中日新聞の「キャンパスから」、北日本新聞の「学生の目」などのコーナーを中心に引きあげられた学生の出身高校に持参する。

## 14. 研究活動

### 1. 学会発表および論文発表

#### 1.1. 学会発表

- 陳碧霞・仲間勇栄・浦山隆一, 「沖縄の村落空間(東アジアにおける風水集落の景観構造及び風水樹に関する比較研究)」, 国際シンポジウム「国際移民与客家文学術研討会」中国・嘉応大学客家研究院(2013/10/10)
- 大川泰毅・鎌田誠史・浦山隆一, 「与論島における城・朝戸集落の空間構成の特徴に関する研究」日本建築学会九州支部研究発表会, 佐賀大学, (2014/3/2)
- 山元貴継, 鎌田誠史, 浦山隆一, 澁谷鎮明, 「沖縄本島南部における「格子状集落」の形成—南城市玉城・前川集落などを事例に—, 日本地理学会春季学術大会, 国士舘大学, (2014/3/28)
- UESAKA, H., “Local Energy Production for Local Consumption Using Micro-Hidropower”, 43rd International Symposium on Multiple-Valued Logic, Toyama (2013/5/23)
- 後藤眞宏, 駒宮博男, 上坂博亨他, 「地域のもつ潜在的自治力覚醒プロセスの実践—岐阜県石徹白地区を事例として—」, 農業農村工学会, 京都市, (2013/11/13)
- 尾畑納子, 「水環境負荷軽減のための衣類の洗浄システムの検討」, (社)日本繊維機械学会北陸支部2013年次大会, 金沢大学(2013/12/6)
- 斎藤敏子, 「ツアーガイドの認証制度について—富山の現状をふまえて—」, 日本観光研究学会, 松陰大学, (2013/12/8)
- 助重雄久, 「インターネットの普及に伴う「島旅」の変化—沖縄県宮古島の場合—」, 日本地理学会 2013 年秋季学術大会, 福島大学, (2013/9/28)
- 助重雄久, 「離島観光におけるインターネットの活用—宮古島と屋久島の実態を中心に—」, 日本地理学会 2014 年春季学術大会, 国士舘大学, (2014/3/28)
- 高尾哲康, 「要約筆記品質向上支援システム」, 情報科学技術フォーラム FIT2013, 7M-7, (2013)
- 高尾哲康, 「要約筆記品質評価システムにおける要約表現抽出」, 情報処理学会年次大会 IPSJ76, 2F-2, (2013)
- 小林剛, 李世明, 上田裕之, 久保寺良光, 高橋ゆかり, 劉予宇, 「大気へ排出された鉛の沈着による土壌汚染の可能性の検討」, 第 19 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 京都,(2013/6/13)
- 森一星, 渋谷麻衣, 小林剛, 高橋ゆかり, 亀屋隆志, 藤江幸一, 「1,4-ジオキサンの土壌中挙動と水浸透を考慮した予測モデル」, 第 19 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 京都, (2013/6/14)
- 高橋ゆかり, 久保寺良光, 佐藤全倫, 劉予宇, 小林剛, 亀屋隆志, 「鉛の土壌溶出量への塩濃度の影響の解析と津波堆積物中での挙動」, 第 19 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会, 京都, (2013/6/14)
- PAVLIY, B., 「語学学習における内発的動機づけを高める方法」 大学英語教育学会 (JACET) 中部支部大会、岐阜聖徳学園大学・岐阜市, (2013/6/1)
- PAVLIY, B., “Language choice and political preferences in Ukraine: can language

unite the nation?”, Peace As a Global Language International Conference, Niiza, Saitama (Japan), (2013/11/17)

- Pavliy, B., “How to address different English skill level students in the classroom” 全国語学教育学会 (JALT) 浜松支部・浜松市, (2013/12/14)

## 1.2. 論文発表

- Bixia Chen, Yuei Nakama. & Takakazu Urayama, (2013). Planted forest and diverse cultures in ecological village planning: a case study in Tarama Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Small Scale Forestry*, DOI: 10
- 鎌田誠史、山元貴継、浦山隆一、澁谷鎮明、(2014)「沖縄本島・旧勝連間切の近・現代における村落空間の特徴と変遷—村落空間構成の復元を通じて その 2—」, 日本建築学会計画系論文集, 6月号
- 後藤眞宏, 駒宮博男, 上坂博亨他 (2013) 小水力発電の導入による農業水利施設の活かし方, 農業農村工学会誌, 81(2), 93-96
- 上坂博亨 (2013) 山間地農家における小水力発電による電力自給システムの開発 : エネルギー地産地消に向けての取り組み, 畑地農業, 650, 13-25
- Yuyu LIU, Takeshi KOBAYASHI, Yukari TAKAHASHI, TAKASHI Kameya and Kohei URANO (2013) A simple simulation of Adsorption equilibrium of Pb(II) on Andosols in the presence of dissolved humic substances for monitoring soil contamination., *Journal of Environmental Science and Health, Part A*, 48, 1694-1699
- 小林 剛, 上田 裕之, 高橋 ゆかり, 亀屋 隆志 (2013) 大気へ排出された粒子状物質成分の沈着による土壌汚染の可能性の検討, 環境情報科学学術研究論文集, 27, 233-236
- 高橋光幸, 湯麗敏 (2014) 富山県と岐阜県の観光資源および観光施設に対する中国人留学生の評価, 総合観光学会『総合観光研究』(掲載予定)
- Pavliy, B. (2013) 日本の地方との交流・地方に関する知識(ウクライナ人の日本語学習者を対象とした調査研究) 言語文化学会論文集 20 周年特別記念号(第 40 号), pp.49-62
- Pavliy, B., McNabb, R.G. (2014) “Motivational Soccer” *The Language Teacher*, Vol.38, Number 1, Jan/Feb 2014, pp.22-23

## 2. 紀要執筆状況

今年度は論文 17 編、研究ノート 1 編が投稿された。ほぼ全員の教員が論文を投稿しており研究活動が活発に推進されていると評価できる。

<論文>

- 大谷孝行：大学のゼミにおける LTD（話し合い学習法）の実践
- 大西一成：物価変動要因に関する考察 —金利、為替、輸入との関係を中心に—
- 尾畑納子：環境負荷軽減のための洗浄に関する基礎研究（第 8 報）
- 後藤智：「震災がれきの広域処理」に関する住民監査請求
- 斎藤敏子：ツアーガイドをめぐる諸問題について —認証制度やサステナビリティを中心に—

- 佐藤悦夫：観光資源としての世界遺産～平泉と五箇山の比較
- 助重雄久・恐竜博物館観光調査グループ：ジオパーク関連施設が周辺地域の観光にもたらす効果 - 福井県立恐竜博物館の事例 -
- 高尾哲康：要約筆記品質評価システムの概要
- 高橋光幸：観光資源の定義と分類に関する考察
- 高橋哲郎：韓国のコンテンツ産業の現状と輸出振興策に関する一考察
- 高橋ゆかり・小林剛・劉予宇汚染土壌中における鉛の形態変化
- 谷口新一：富山県内における NPO インターンシップのアンケート調査と可能性調査
- 湯麗敏：中国人の目に映った富山の観光
- 成澤義親：日本と東アジア諸国の観光現状 ～北陸の観光戦略を踏まえて～
- Bogdan Pavliy : The abolition of the 2012 language law in Ukraine: was it that urgent?
- 水林義博・上坂博亨：電気軽トラックを活用する農村のためのバッテリー交換ステーションの最適配置方法に関する研究
- 村瀬直幸：創造性はいかに生まれるか

<研究ノート>

- 助重 雄久・城戸比奈子・嶋田佑里亜・名取大地・野呂瑞季・濱谷 光・劉 哲偉：特産物のイメージと観光客の購買行動 - 鹿児島県を例として

### 3. 競争的資金等による採択研究の概要

#### 3.1. 科学研究費助成事業

25年度は新規採択研究が1課題、継続研究が2課題、さらに研究分担が5課題となり、科研費の採択数が伸び悩んでいる状態である。26年度の申請は終了しており、現段階では増加の見込みは無い。27年度に向けて新たなチャレンジを要する。

<研究代表者>

- 浦山隆一：琉球の近世計画村落形成に伝統的祭祀施設と村抱護が果たした役割と意味に関する研究【新規】
- 高橋光幸：北陸・飛騨地域の伝統的文化・自然資源の観光的価値に関する研究（継続）
- 助重雄久：景観の図像化プロセスの解明とナビゲーションツールとしての案内地図への応用（継続）

<研究分担者>

- 浦山隆一：有明工業高等専門学校
- 浦山隆一：神戸芸術工科大学
- 尾畑納子：奈良女子大学
- 佐藤悦夫：愛知県立大学
- 助重雄久：東京大学

#### 3.2. 科学技術振興機構（JST）

社会技術研究開発センター「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究領域において H21 年に採択された「小水力を核とした脱温暖化の地域社会形成」プロジェクトの最終

年度となる。25年度は5年間の研究総まとめとして報告書の作成と研究評価会への対応を行ってきた。

- 上坂博亨：小水力利用パッケージパターンの構築および地域関係者の合意形成プロセス研究

### 3.3. 富山県ひとづくり財団

同財団からの助成のうち、研究およびアウトリーチに関連する2号～5号助成について掲載する。

- 2号助成金（富山国際学園創立50周年記念国際交流シンポジウム）
- 3号助成金（「北陸新幹線開業に向けた新川地区のツーリズム」セミナー）
- 5号助成金（谷口新一：富山県内におけるNPOインターンシップの試行実施と可能性調査）

### 3.4. 富山第一銀行奨学財団

- 湯麗敏：富山県における新しい観光の在り方に関する研究
- 才田春夫：自立支援型村落開発援助の有効性に関する研究
- 高尾哲康：要約筆記支援システムの研究

### 3.5. その他

宇奈月温泉地区において地熱エネルギーの開発事業に関連して、地域団体を研究主体とした「地熱開発理解促進事業（経産省）」が採択されその研究分担として1件、また北海道富良野市による小水力発電による避難所形成事業の研究分担として1件、計2件の研究分担を受託した。

- 上坂博亨：宇奈月温泉地域平成25年度地熱開発理解促進関連事業支援補助金
- 上坂博亨：富良野市小水力発電設計業務

## 4. 評価と課題

- ・ 紀要執筆に関しては十分活発に推進されているが、25年度は特に締切が守られないことが問題となった。これに関して26年度は紀要執筆専門委員会において提出時期の見直しと周知徹底を図る。
- ・ 科研費採択については、26年度の申請は終了しており、現段階では増加の見込みは無いことから、27年度に向けて時間に余裕をもって提案書を作成するよう促していく必要がある。
- ・ 大学運営業務に関連して会議が増加しており、教員の研究時間が確保できない事が問題となっている。研究活動促進の面からも、会議の回数削減と効率化が課題である。

## 15. 大学・学部の戦略・運営に関する検討

本事項については、現代社会学部だけを取り出して記述することが困難なため、学長室スタッフ会議の活動内容を記述する。

### 1. 実績と現状

学長室スタッフ会議は8名から構成され、学長の指揮の下で、次の3業務に関連する事項について検討・議論を行っている。

- (1) 富山国際大学の経営や教学に関する戦略、目標、将来計画（短・中・長期）、事業の企画等に関すること。
- (2) 企画本部の運営に関すること。
- (3) その他、大学の運営に関する基本的事項。

平成25年度の主な検討事項は次の通りである。

- (1) 平成25年度企画本部・企画（プロジェクト）チームのメンバー
- (2) 平成24年度自己点検評価報告書の作成
- (3) 富山国際大学 IR の推進—富山国際大学データベースの構築—
- (4) 学長室機能の明確化
- (5) 富山国際大学アクションプラン策定
- (6) 諸活動のPDCAサイクルを機能させる風土づくり
- (7) 危機管理ガイドライン・危機管理マニュアルの策定
- (8) 富山国際大学教員個人評価
- (9) 任期更新時の再任評価実施要領
- (10) 学生証 IC カード化、証明書発行自動化
- (11) 文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業への申請書
- (12) 文部科学省「平成26年度地（知）の拠点整備事業」申請書作成
- (13) （私立大学等経常費補助金）平成25年度情報の公表に係る調査
- (14) 平成26年度予算編成方針
- (15) 富山市との連携事業の推進

### 2. 課題

- (1) 大学内のさまざまな情報を収集して・数値化・可視化し、評価指標として管理できるように、当面は、富山国際大学版データベースを構築して、その活用法について方針を決め推進していくことが望まれる。
- (2) 策定したアクションプランの進捗状況を管理する仕組みづくりを行い、実施段階で遅れが生じないように支援していくことが当面の課題である。
- (3) 今後予想される18歳人口の減少やそれに伴った大学間競争の激化等に対応していくために、本学の中長期的な基本戦略の策定が問われていると考えられるので、その策定に向けた検討が必要である。

## 16. 後援会・保護者対応

### 1. 実績と現状

#### (1) 後援会理事会・後援会総会

①理事会 平成25年5月25日(土)開催(東黒牧キャンパス)

②総会 平成25年6月22日(土)開催(富山第一ホテル)

#### (2) 保護者懇談会

懇談会にあたり、事前に、ゼミ担当教員から保護者あてに、学生に関するコメントを送付。

①前期：後援会総会(平成25年に5月25日(土))で実施

②後期：大学祭(平成25年10月12日(土)、13日(日))で実施

#### (3) eポートフォリオ学生カルテ

①担当ゼミ学生に関する日頃の指導状況をeポートフォリオ学生カルテに記入し、情報共有を図るとともに、保護者懇談会等の資料とする。

#### (4) 休退学指導記録

①担当ゼミ学生の休学や退学に関連した指導記録を、学内共有フォルダ内に保存し、今後の指導に役立てる。

### 2. 課題

(1) 後援会総会や、保護者懇談会に参加する保護者の数があまり多くないので、これを増やしたい。

(2) ゼミ担当教員以外の教職員も、学生指導上の特記事項をeポートフォリオ学生カルテに記録・蓄積し、それを保護者懇談会の前のコメントに追加することで、保護者への情報提供をより豊富かつ詳細に出来る。

## 17. 出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携活動

### 1. 実績・現状

#### (1) 出講プログラム

出講プログラム等による教員の外部講義・講演は以下のとおりである。

氏名	出講プログラム等による外部講義・講演
上坂博亨教授	付属高校、富山商業、上市中学校で各1件、学外団体等から31件
浦山隆一教授	黒部川扇状地研究所での例会講演（1回）
大谷孝行教授	「笑い」、「日本の精神療法」というテーマで16回の講演
大西一成教授	「日本経済」を中心テーマとした講演を12回実施
尾畑納子教授	富山市民大学、明日の富山県を創る会総会、富山県母親クラブ総会、エクステンション・カレッジ、とやま経済同友会環境部会、男女参画連携講座、スギノマシン、高校（小杉高校、呉羽高校）などで講義・講演
才田春夫教授	雄山高校、エクステンション・カレッジ講座、能登まほらまの里会など
高橋哲郎教授	付属高校、いずみ高校
高橋光幸教授	氷見高校
長尾治明教授	入善高校、滑川高校、呉羽高校、富山商業、高校PTA総会、中学校社会科研修会など
村瀬直幸教授	付属高校、エクステンション・カレッジ講座
小西英行准教授	「花まつ」で講演、地域交流センター「女性」のキャリアアップ講座」で3回講義
後藤 智准教授	—
斎藤敏子准教授	高校出講は福光高校・呉羽高校の2件、地域出講は警察学校・観光未来塾・富山県砺波地区会・富山駅周辺開発協同組合・男女共同参画・高岡市役所、富山県生協役員および一般職員、富山県バス協会などで講義・講演12件。「新川地区のツーリズム・セミナー」で報告
佐藤綾子准教授	（新任）
佐藤悦夫准教授	泊高校、入善高校、富山ライオンズクラブ
助重雄久准教授	南砺福野高校(2回)、大門高校、「新川地区ツーリズム・セミナー」で報告
高尾哲康准教授	—
湯 麗敏准教授	付属高校・新川高校、富山市国際交流協会で中国語講座（11回）、大学キャンパス内で社会人向け実用中国語講座（20回）
高橋ゆかり講師	小杉高校
谷口新一講師	八尾高校、富山県環境チャレンジ10で講師2回
B. パブリー講師	福野高校、富山南高校（2回）、志貴野高校、雄山高校

(2) 外部委員会・審議会

教員の外部委員会・審議会における活動状況は以下のとおりである。

氏名	学外委員会・審議会等
上坂博亨教授	富山県小推力利用推進協議会(会長)、でんき宇奈月プロジェクト実行委員、富山市環境未来都市農村活性化PT、とやま21世紀水ビジョン推進委員、日本EIMY研究所など11件
浦山隆一教授	黒部川扇状地研究所(副所長)、入善町文化財保護審議委員、入善町環境審議会委員
大谷孝行教授	日本内観学会評議員
大西一成教授	富山市男女共同参画と連携を継続・大学コンソーシアム地域貢献部会委員
尾畑納子教授	日本繊維製品消費科学会評議員、日本繊維機械学会北陸支部副支部長、富山県消費生活審議会会長、富山県環境審議会委員、富山市環境審議会委員、氷見市環境審議会会長、富山消費者協会副会長、富山市教育委員
才田春夫教授	富山県ボランティアセンター運営委員
高橋哲郎教授	富山地方最低賃金審議会会長
高橋光幸教授	総合観光学会理事、南砺市交流観光まちづくりプラン推進会議委員長
長尾治明教授	中部経済産業局、北陸整備局、富山河川国道事務所、高齢・障害・求職者雇用支援機構、富山労働局、富山商工会議所、黒部商工会議所、富山県中小企業団体中央会、富山県新世紀産業機構、コラボ産学官富山支部、富山県、富山市、高岡市、射水市、砺波市、滑川市、南砺市、小矢部市など
村瀬直幸教授	コンソーシアム富山合同企業訪問幹事校委員
小西英行准教授	—
後藤 智准教授	富山県インターンシップ推進協議会連絡委員会副委員長、若者の地域連携事業に関する企画審査委員会(厚生労働省)委員
斎藤敏子准教授	とやま観光未来創造塾委員及び講師、国土交通省地域政策局観光地域づくり人材育成支援委員、富山市観光振興課策定会議委員、高岡商工会議所委員、富山市観光実践プラン策定委員、県立文化施設耐震化・整備充実検討委員
佐藤綾子准教授	(新任)
佐藤悦夫准教授	—
助重雄久准教授	棚田学会評議員、黒部市地域観光ギャラリー展示空間検討委員会委員長、立山黒部ジオパーク推進協議会ジオツアー部会員
高尾哲康准教授	情報処理学会北陸支部運営委員
湯 麗敏准教授	富山市民国際交流協会教養委員
高橋ゆかり講師	—
谷口新一講師	富山県地球温暖化防止活動推進員
B. パブリー講師	—

### (3) 地域団体等との連携

教員の地域団体等との連携活動の状況は以下のとおりである。

氏名	地域団体等との連携活動
上坂博亨教授	でんき宇奈月プロジェクト、富山市環境未来都市農村活性化プロジェクトチーム、八尾町桐谷の過疎山村再生プロジェクト
浦山隆一教授	富山県建築士会、富山県建築士事務所協会
大谷孝行教授	富山県バスケットボール協会理事
大西一成教授	エクステンション・カレッジの運営・講演、高校公民部会での講演及び同部会紀要に掲載
尾畑納子教授	NPO法人きんたろう倶楽部と協働、立山砂防女性サロンの会会長など
才田春夫教授	NPO法人F-siteとの連携活動、NGOインドネシア教育振興会理事、富山県青年海外協力隊育てる会理事、富山県ボート協会理事
高橋哲郎教授	(公財) 環日本海経済研究所共同研究員
高橋光幸教授	第1回終着駅サミットin城端コーディネーター
長尾治明教授	全日本大学野球連盟評議員、北陸大学野球連盟理事長、とやま産業観光推進協議会副会長
村瀬直幸教授	—
小西英行准教授	富山商工会議所青年部「学店」コンテストへの学生参加
後藤 智准教授	富山県自治体問題研究所、大学人9条の会、JSA富山支部活動
斎藤敏子准教授	NPO法人観光創造会議、朝日町笹川地区、和倉温泉加賀屋、ANAホテル富山、金沢日航ホテルとの各連携。日本エコツーリズム協会シンポジウムへの学生参加
佐藤綾子准教授	(新任)
佐藤悦夫准教授	JICA「仏語圏アフリカ持続可能な観光開発」研修
助重雄久准教授	城端Fan倶楽部等との連携
高尾哲康准教授	—
湯 麗敏准教授	富山市国際交流協会でボランティア活動
高橋ゆかり講師	—
谷口新一講師	立山町インターカレッジへ参加(3年ゼミ)
B. パブリー講師	富山県高大連携連絡会議、富山市市民学習センターで「世界の国々」講座

## 2. 課題

### (1) 授業・学務優先原則の順守

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携は、本学部にとって重要な活動である。したがって、今後も、授業および学務優先の原則を守りながら、適切に対応していくことが大切である。

### (2) 学内手続きの順守

出講プログラム、外部委員会・審議会、地域団体等との連携等の活動を行うにあたっては、事前に学内の必要な手続きを経ることが大切である。